

菊池のお菓子を知事へPR

4月24日(金)



蒲島知事(中央)と訪問団のメンバー

熊本県庁で、福村市長、津村菊池菓子工業組合長など10人が蒲島知事を表敬訪問し、菊池菓子工業組合加盟の9店舗で作るお菓子を詰め合わせた「菊池徒然」を進呈しました。

「菊池徒然」を受け取った蒲島知事は「私も菊池のお菓子は知っており、少年時代に菊池のお菓子を食べた記憶がある」と話されました。

また、今回はPR効果を高めるために、菊池観光大使の「劇団にゃあ」も同行し、お菓子を題材にした得意の寸劇を披露しました。蒲島知事を笑いに誘いながらもしっかり「菊池徒然」をPRした団員たちに、蒲島知事からは「自分も青年団時代に演劇の体験があるが、「劇団にゃあ」がはるかに上手かった」とお墨付きもあり、会場は和やかな雰囲気になっていました。

第4回菊池市小学生ソフトボール大会

4月26日(日)

菊池市小学生ソフトボール大会が、熊本ヤクルト(株)協力のもと、菊池市多目的広場、七城総合グラウンドで開催され、男子17チーム、女子10チームが熱戦を繰り広げました。

上位の結果は次のとおりです。(敬称略)

男子Aパートの部

- 優勝 戸崎ホークス
- 準優勝 菊小ファイターズ
- 第3位 遊豊男子、泗水西田島オーシャンズ

男子Bパートの部

- 優勝 旭ヶ丘
- 準優勝 龍門ドラゴンズ
- 第3位 袈裟尾男子、菊小ホークス

女子パートの部

- 優勝 花房小A
- 準優勝 河原小女子チーム
- 第3位 菊小マリナーズ、戸崎小



男子Aパートの部優勝 戸崎ホークス



男子Bパートの部優勝 旭ヶ丘



女子パートの部優勝 花房小A

子ども読書フェスティバル

4月29日(祝)



各グループの活動を紹介したパネル

読み聞かせをするメンバーと絵本に見入る子どもたち

4月23日～5月12日の「こどもの読書週間」に合せて、泗水図書館で子ども読書フェスティバルが開かれました。

リサイクル本の無料配布や、読み聞かせグループによる「おはなしのリレー」があり、昔話の語りや紙芝居、手袋を使った人形劇、大型絵本などが次々と発表され、多くの家族連れで賑わいました。期間中、館内では子どもたちが作ったお話の小道具「手袋人形ギャラリー」や布絵本の展示、地域や学校で本の楽しさを伝える活動をしているグループを紹介したパネル展示などがありました。

安全運転を呼びかけました!

4月10日(金)

4月6日から15日まで行われた「春の全国交通安全運動」期間中、各団体でさまざまな啓発運動が行われました。その中で4月10日を、「県下一斉アピール日」および「交通事故死ゼロを目指す日」と位置付け、菊池市内の各地で、街頭キャンペーンが行われました。

七城地区では、JA菊池七城中央支所前で交通安全協会・交通指導員・交通安全母の会などから18名が参加し、「交通安全をお願いします」と声をかけながら、交通安全を啓発するチラシなどを配布し、市民へ周知を図りました。



交通安全の呼びかけをしながらチラシを配る参加者

腕章つけてタクシー運転手が防犯活動

4月28日(火)

タクシー運転手に、腕章を付けてもらうことで、立ち寄るコンビニなどでの犯罪被害の防止を図る「菊池タクシー安全安心デリバリー」活動の出発式が、菊池警察署でありました。

式には、菊池市内のタクシー会社5社の運転手やコンビニの代表者ら20人が出席しました。

菊池警察署の吉長立志署長が「新たなパトカーを得た気持ちです。普段からこの腕章をつけて、防犯活動をお願いします」とあいさつし、緑色の腕章65枚をタクシー会社の代表者へ手渡しました。

腕章を受け取ったタクシー運転手たちは、さっそく腕章を腕につけ、安全安心を送るため出発していきました。



腕章をつけ出発するタクシー運転手

ワカサギのふ化箱設置

3月29日(日)

菊池川漁協(緒方 奨組合長)が、竜門ダム湖畔の上流(鳳来地区)に、約700万粒のワカサギの卵が入ったふ化箱を設置しました。3年ぶりとなる今回、長野県の諏訪湖漁協から卵を取り寄せ放卵し、卵からふ化した稚魚が元気よく泳いでいます。

しかし、外来魚であるブラックバスが大量に発生し、ワカサギの卵や成長期の稚魚を食べてしまうため、同漁協ではブラックバスの退治に力を入れていくそうです。設置した同漁協職員は「ブラックバスの放流は違法で、罰則もあります。最近、ブラックバスを専門に釣る人が増えていますが、釣ったブラックバスは川に戻さないで一匹でも持ち帰ってほしいですね。また、今後も、ワカサギの成長を見守ってほしいです」と話していました。



菊池川漁協によるふ化箱の設置

菊池川に鮎の放流

4月15日(水)

菊池川・迫間川に生後69日の鮎約100,300匹(480kg)が放流されました。この鮎の放流は、魚種保護のための増殖事業として、菊池川漁協(緒方 奨組合長)が毎年行っているものです。

この鮎は、今後上流へと遡上し、夏になると餌場確保のため一定の縄張りをつくり成魚へと成長していきます。



菊池川に鮎を放流する関係者